

えどしょうよ 江戸逍遥

小石川後樂園とともに、今に残る最も古い大名庭園のひとつです。典型的な「池泉を中心とした回遊式庭園」で、その地割りと石組は秀逸です。この地はかつて海面でしたが、明暦(1655~1658年)の頃に埋め立てられ、延宝6(1678)年に老中・大久保忠朝の邸地となりました。忠朝は上屋敷を建てる際に、藩地の小田原から庭師を呼び寄せて作庭し、これを「楽壽園」と命名しました。

その後、数氏を経て、幕末には紀州徳川家の芝御屋敷となりました。明治4(1871)年に有栖川宮家の所有になりましたが、同8(1875)年に宮内省がこれを買上げ、翌年に芝離宮となりました。大正12(1923)年の関東大震災によって、建物と樹木のほとんどが焼失しましたが、翌13(1924)年1月、昭和天皇のご成婚記念として東京市(都)に下賜され、庭園の復旧と整備を施して、同年4月に「旧芝離宮恩賜庭園」として一般に公開されました。昭和54(1979)年6月に「旧芝離宮庭園(文化財指定名称)」として国の名勝に指定されています。



せいこ つつみ 西湖の堤

中国の杭州(現在の浙江省)にある西湖の堤を模した石造りの堤。堤の先にある中島の石組は、楽壽園の頃からのものです。

なか じま 中島

園景の要となる箇所、池の中央にある中島です。中国で仙人が住み不老不死の地といわれる霊山を模した蓬莱石組となっています。



あずまやと榎(ハゼ)の紅葉



←竹芝ふ頭方面

浜松町駅方面→

車いす通行可ルート

0m 30m

かれ たき 枯滝

山峡を流れ落ちる滝を彷彿とさせる石組み、流れの河床が園路になっていて、景観の変化を楽しむことができます。

おお やま 大山

庭園内のもっとも高い築山で、頂上からの眺めが見事です。また、左右の築山と構成される稜線の変化は、池の対岸から見ると味わい深いものがあります。



大山からの眺め

だい せん すい 大泉水

庭園の要となる約9,000㎡の広さをもつ池です。昔は海水を引き入れた潮入りの池でしたが、現在は淡水の池になっています。池は中島と浮島を配して海と湖を形どり、一画には小さな州浜が設けられています。



雪見灯笼

ふじ だな 藤棚

庭園の入口付近には大きな藤棚があります。5月の初め頃、紫色の大きな花房がさがり、芳香を放ちます。